

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	観光名所（従業員）	来客数の動き	・コロナ禍以前のにぎわっていた頃よりも来客数の多い日の割合が日増しに増えている。当地を舞台にした劇場アニメの効果でファンの聖地巡礼がみられるほか、豪華客船の寄港も増加しており、それらの経済効果を肌で感じることができている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク直後の来街者の動きをみると、予想以上に地元客の利用が多かった。中旬以降も、来街者が前年をやや上回って推移した。駐車場の車のナンバーからは、地元客に加えて、道内からの観光客も3か月前と比べて増えていることがうかがえる。当地に本店のある菓子店の買物袋を携行している客も多くみられた。
	○	一般小売店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・5月に入り、新規オープンする店舗が増えており、街中に活気が戻っている。
	○	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・インバウンドの来店が見込み以上に多かった。特に中国語圏の客が目立っている。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車が6月末に発売される予定であり、先行受注もみられ始めていることから、全体的な販売量は上向きになっている。ただし、新型車の販売が好調な店舗がある一方で、余りうまくいっていない店舗もみられる。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・イベントなどの来場者数が前年よりも増えており、販売量も増加傾向にある。ただし、メーカーの生産枠が増えなければ、増収にはつながらない。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車の受注が開始されたこともあって、ゴールデンウィーク明けから来場者数が増えており、それに伴って受注量も増加している。中古車の販売も好調である。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ゴールデンウィークに入り、レストランの来客数が増加している。その後も来客数は順調に推移していることから、景気は上向いている。
	○	旅行代理店（従業員）	単価の動き	・国内線の航空便の搭乗率が上昇している。レストランや貸切バスなどの手配が難しい日もみられる。これらのことから、需要の回復を実感している。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・春を迎えて、除雪や灯油などの出費が減ったことから、客の気持ちに多少の余裕が出ている。客から外出や食事などの話題を聞くことも増えている。それに伴って、客が美容室を利用する機会も増えている。
	□	商店街（代表者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの天候が良すぎたことから、郊外に出掛ける客が多く、中心市街地の店舗は苦戦を強いられた。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・5月の売上は、2023年比で109.8%、2022年比で233%、2021年比で1015%、2020年比で3113.8%、2019年比で95.3%となっている。
	□	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・5月に入り、来客数が減少傾向にある。地域を挙げてのイベントが少ない時期ということもあって、海外からの観光客数も減少しており、苦戦が続いている。この傾向はしばらく続くことになる。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・売上は、前年から微増している状況が続いているが、原価高騰に起因する商品単価上昇の影響が大きい。来客数は前年並み、買上点数は前年以下にとどまっており、客が一度の買物で支出する金額はさほど変わっていない。
□	スーパー（役員）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク期間中は、観光などの行楽需要が活発で売上が好調だったが、ゴールデンウィーク後は売上が減少している。客の金の使い方をみると、メリハリがはっきりしており、節約志向の強まりがうかがえる。	

□	衣料品専門店 (エリア担当)	来客数の動き	・来客数及び買上点数の動きをみると、やや減少傾向にある。ただし、気温の推移など、前年との天候状況の違いを考慮すると、季節商材以外の動きがそれほど鈍化しているわけではない。初夏らしい天候になれば、来客数も回復するとみられる。
□	乗用車販売店 (経営者)	お客様の様子	・賃上げが物価上昇を上回る水準とはなっていないことから、個人消費は弱めの動きとなっている。
□	自動車備品販売店 (店長)	お客様の様子	・販売量の増加を目的に、カー用品以外で客の目を引くような商材を仕入れ、販売している。客からは、興味がある、欲しいといった声が多い一方で、現状を踏まえると無駄遣いはできないという声も多く、実売には余りつながっていない。
□	住関連専門店 (役員)	販売量の動き	・売上の前年比をみると、3か月前と変化がみられない。
□	その他専門店 [医薬品] (経営者)	販売量の動き	・天候不順の影響で、客が歩かない傾向がみられる。インターネットでの買物が普及していることも影響している。店内の様子をみると、昨日は混んでいても、今日はがらがらといった具合である。
□	その他専門店 [ガソリンスタンド] (経営者)	単価の動き	・石油製品価格が高止まりしているため、3か月前と状況は変わらない。
□	その他専門店 [造花] (店長)	お客様の様子	・5月は繁忙期であるが、今年の動向は芳しくない。地方の動きは以前から下向きであったが、今は全道的に動きが鈍くなっている。
□	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・5月の売上は前年を下回るとみられる。温暖な日は売上が増えたが、天候不順な日や大規模な太陽フレアの影響が懸念された期間は売上が減少した。また、当地では5月後半に食のイベントが開催されたが、昼夜共に、飲食店には客足が向かなかった。取引業者からは、一部の観光地の飲食店は客入りが良いが、全体的には景気が下向いているとの話を聞いている。懸念材料となっているオリーブ油の値上げについては、6月から価格が3倍になる商品もあるため、早急な対応が求められている。
□	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・大都市圏では景気が回復基調にあるようだが、当地の景気は上向きつつあるものの、それほど大きく変わっているわけではない。
□	旅行代理店 (従業員)	お客様の様子	・景気の悪い状態は変わっていない。貸切バスやホテルなどの価格が前年よりも高騰しているため、客の予算と合わずに旅行を中止するケースも散見される。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・日中の利用客数はほとんど変化がみられない。他社の状況を聞いても同様であった。夜間の利用客数はやや良い日とやや悪い日がきつ抗している。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・3か月前と比べて、景気はどちらともいえない状況にある。夏を迎えて、本格的な観光シーズンに入ってから動きを注視したい。
□	美容室 (経営者)	来客数の動き	・来客数の動きをみると、ここ3か月、多少の増減はあるものの、前年とはほとんど変わっていない。
□	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・住宅着工数が相変わらず増えてこない。建売住宅もそれほど売れていない。需要が落ち込んでいる割に、原材料価格が余り低下してこないこともマイナスである。
□	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中のイベントについて、集客数が減少している。
▲	商店街 (代表者)	単価の動き	・販売量の多い中間価格帯の商材の動きが悪い。
▲	商店街 (代表者)	お客様の様子	・客の反応が非常に悪い。政治の状況が余り良くないことが影響しているとみられる。
▲	一般小売店 (経営者)	来客数の動き	・来客数が減少しており、そのことが悪影響を及ぼしている。
▲	スーパー (店長)	来客数の動き	・値上げの動きが続くなか、値上げ特集などの報道がみられることから、客の買上点数が減っている。買物の頻度も低下している。

▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・買上点数の動きが良くない。一方、値引き商品の売行きは好調なことから、客の買い方がシビアになっていることがうかがえる。
▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・来客数については、それほど変動もなく、これまでと同様の水準で推移しているが、天候不順の影響による農作物の価格高騰、円安の影響による輸入生鮮物の価格高騰が影響し、買上点数が減少傾向にある。特に果物、精肉の動きが良くない。
▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・例年、焼き肉の食材などが売れる時期だが、今年は販売量が落ち込んでいる。遠出の行楽を避け、家庭で過ごす傾向が強まっているなか、家計の消費額を抑える傾向が強まっている。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・これまでは商品の値上げの影響もあって、売上が増加傾向にあったが、ここに来て、客単価が落ち着き始めている。来客数も減ってきている。
▲	コンビニ（店長）	単価の動き	・ゴールデンウィークが明けてから、客単価に伸びがみられない。買い控えの傾向が強まっていることがうかがえる。
▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・円安で1ドル160円を超えそうな状況となってきたことから、客の節約志向が強まっている。
▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・エネルギー価格が高止まりしており、家計を圧迫している。購買を踏みとどまる傾向もみられるようになっている。定額減税の効果も余りみられない。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・国内線の航空需要は、冬季の観光繁忙期こそ好調に推移していたが、4月以降は前年並みとなった。前年は新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行前の時期であったことから、国内客の動きは鈍っていると見える。国際線の航空需要も観光閑散期を迎えて減っており、コロナ禍からの回復傾向は踊り場を迎えている。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数の減少が顕著である。国内旅行については、一部の日程や地域において、宿泊料金の高騰が目立っているほか、団体客向けの空室の少ない状況が続いている。海外旅行については、円安の影響で価格が高騰しており、それが収まるまで回復は難しい。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・5月に入り、売上が極端に低下している。ゴールデンウィークの影響も考えられるが、客の節約志向が強まっている状況もうかがえる。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・人の動きが悪くなっている。夜、飲みに出掛ける人も少なくなっている。
▲	通信会社（企画担当）	来客数の動き	・全道的にみて、競合他社からの乗換えを検討する客、新しい端末に買換える客が大幅に減少している。大型商業施設などの出店販売においても、以前と比べて立ち寄り客の数が減少している。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・客の来店サイクルが明らかに長くなっており、売上が減ってきている。
▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・インバウンドは増加しているものの、国内旅行客が減少している。
▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームに来訪する客の数が減少傾向にある。分譲マンションの購入予算も縮小傾向にある。
×	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・全国旅行支援のあった前年と比べると、航空便の乗降客数が10%から15%減っている。小売店の売上もそれに比例して10%から15%の落ち込みとなっている。
×	スーパー（店長）	販売量の動き	・引き続き物価が上昇している一方で、所得がそれほど増えていないことから、景気は悪くなっている。
×	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・例年、夏物商材が稼働し始める時期だが、コロナ禍の最中と比べても来客数が減っている。特に週末の集客は平日以下となっており、危機感が強くなっている。

	×	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールデンウィーク以降、国内客、海外客共、集客が伸び悩んでいる。本当のオーバーツーリズム状態になっている地域はごく一部であるにもかかわらず、全国的にオーバーツーリズム対策が進められており、需要喚起策がないがしろにされている。当地を含めた多くの観光地では、むしろ集客が急激に悪化している。また、北海道特有の問題として、航空燃料の不足により、各空港で国際線の受入れが大きく制限されており、国内の他地域と比較して競争力が損なわれている。定期便、チャーター便にかかわらず、多くのリクエストを断らざるを得ない状況にあり、今後の観光不況が懸念される深刻な状況となっている。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症に移行した直後は、コロナ禍からの解放感もあって消費者心理が一時的に好転していたが、それから1年が経過したことで消費者心理も落ち着き始めている。また、円安と物価高が続いていることから、消費者の購買意欲は減退の一途である。
	×	通信会社（エリア担当）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> ・通信キャリアの方針で販売代理店の手数料が減少傾向にあることから、景気は悪くなっている。
企業 動向 関連	◎	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・5月の販売量は前年比プラス18%となった。3か月前の2月の販売量は前年比マイナス4%だったことから、景気は良くなっている。
(北海道)	○	建設業（役員）	受注量や販売量 の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度受注分の着工期を迎えて、想定を上回るペースで現場稼働が本格化している。技術職員の配置もほぼ完了している。
	○	輸送業（支店 長）	受注量や販売量 の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールデンウィークが明けてから輸入貨物量が伸びている。国内移送貨物の見積りや引き合いも順調にみられている。
	○	通信業（営業担 当）	受注量や販売量 の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・販売量、問合せ件数が明らかに増加している。
	○	司法書士	受注量や販売量 の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・相続登記の義務化に伴い、既存の案件も含めて、相続登記の依頼が増えていることから、景気は上向いている。
	○	その他サービス 業 [ソフトウェア開 発]（経営 者）	受注価格や販売 価格の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・取引先が受注価格の引上げに応じてくれるようになった。
	○	その他サービス 業 [建設機械 リース]（営業 担当）	受注量や販売量 の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・公共投資も民間設備投資も安定的に推移していることから、建設投資は高水準を維持している。ただし、人手不足、建設コストの上昇など、今後に向けての懸念材料もある。特に建設機器は値上げが進んでいるため、適正価格での対応が課題となっている。
	□	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・値上げの影響で受注量がやや減っているが、売上は大きく変わっていない。
	□	建設業（従業 員）	受注量や販売量 の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・建設工事費が上昇していることで、民間事業の設計件数が減少傾向にある。また、官庁事業は小規模案件が多い。設備改修設計の案件数は多いが、設計者不足のため、思うように対応できず、不調案件が増えている。
	□	金融業（従業 員）	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・企業から、原材料価格の上昇や人件費の増加に伴って、価格転嫁に向けた交渉を継続するという声が聞かれる。また、人手不足への対応で省力化、システム化投資を進めるといった前向きな声を聞く機会も増えている。
	□	広告代理店（従 業員）	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・広告受注は横ばいで推移している。
	□	司法書士	受注量や販売量 の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・例年よりも雪が少なかったことから、春を迎えて、不動産業や建築業の取引量が増加傾向にある。ただし、今後も原材料価格が上昇するとみられることから、こうした傾向がいつまで続くか分からない。

	□	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量 の動き	・売上は、数か月前の目標値と比べてやや増えているものの、様々な物の価格が上昇していることの影響が大きく、実際の取引量が増えているわけではない。そのため、景気は良くも悪くもない、微妙な状況にある。
	▲	金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・住宅着工棟数が前年と比べて減少傾向にあることから、景気はやや悪くなっている。原材料の値上げが進んでいることもマイナスである。
	×	農林水産業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・りんごについて、前年の歴史的凶作がいまだに影響している。全く売上が増えてこない。
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・企業の人材ニーズは旺盛である。当社の求人数は前年比で50%増加しており、3か月前と同様の水準となっている。ただし、企業の人事担当者からは採用に向けての切実さが伝わってくる一方で、同時に人材の質の低下をこぼす担当者も多い。必要な人員を獲得できていない企業では、業績拡大に向けて影響が出ている。
	○	学校[大学] (就職担当)	求人数の動き	・多くの業界で求人数が増加しており、学生の就職活動に対する企業の採用意欲も高まっている。
	□	求人情報誌製作 会社(編集者)	求職者数の動き	・求職者の年齢が年を追うごとに高くなっている。スポット勤務や短期就労を目的とする求職者も多く、スキルアップにつながらないケースも増えている。このため、景気が必ずしも上向いているとはいえない状況にある。
	□	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・製造業、金融・保険業、宿泊・飲食サービス業、医療・福祉などの新規求人数は増加しているが、年度末と比べると、全体の求人件数は落ち着いている。
	□	職業安定所(職員)	求人数の動き	・当地における4月の有効求人倍率は0.82倍であり、3か月前との比較では0.06ポイント下回った。
	□	職業安定所(職員)	求職者数の動き	・新規求職者数は前年比で5.9%の増加となっているが、有効求職者数は前年から0.2%の増加にとどまっている。一方、新規求人数は前年比で11.1%の減少と2か月前の減少となったが、有効求人数は前年比で0.7%の減少にとどまっている。業況堅調な企業からは引き続き安定した求人がみられることから、景気は変わらない。
	▲	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・宿泊業、娯楽業以外のほとんどの業界で求人件数が前年を下回っている。採用手法について、多種多様なサービスが増加していることで、1つの媒体にこだわらない傾向が強まっていることも影響しているとみられるものの、景気が低迷しているようにもみえる。一方、実際の採用状況が以前よりも順調だという声も聞こえてくる。
	▲	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・業種を問わず、全体的に求人数が減少傾向にある。求人ニーズはあっても、ミスマッチなどで採用難が続いていることが背景にあるとみられる。また、物価高が続いていることで、中小企業の経営環境が悪化していることも理由として考えられる。
	×	*	*	*